

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

令和2年の我が国の漁業・養殖業の生産量は423万5,905 tで、前年に比べ3万2,241 t (0.8%)増加した。

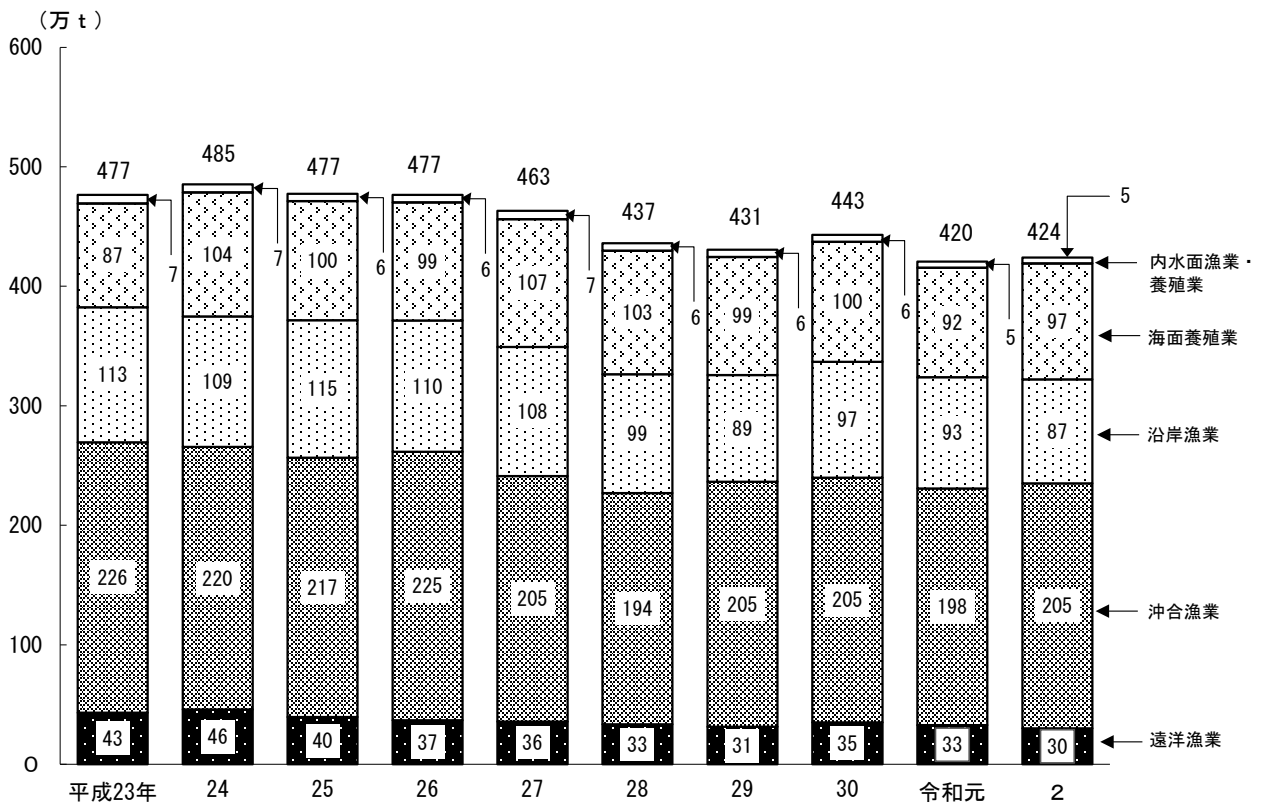
このうち、海面漁業の漁獲量は321万5,424 tで、前年に比べ2万29 t (0.6%)減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は29万8,441 tで、前年に比べ3万393 t (9.2%)減少、沖合漁業は204万6,006 tで、前年に比べ6万9,124 t (3.5%)増加、沿岸漁業は87万977 tで、前年に比べ5万8,760 t (6.3%)減少した。

また、海面養殖業の収穫量は96万9,649 tで、前年に比べ5万4,421 t (5.9%)増加した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万832 tで、前年に比べ2,151 t (4.1%)減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は321万5,424 tで、前年に比べ2万29 t（0.6%）減少した。

東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は6万5,683 tであり、前年に比べて2万7,091 t（29.2%）減少、宮城県の漁獲量は16万6,312 tであり、前年に比べて2万9,148 t（14.9%）減少した。

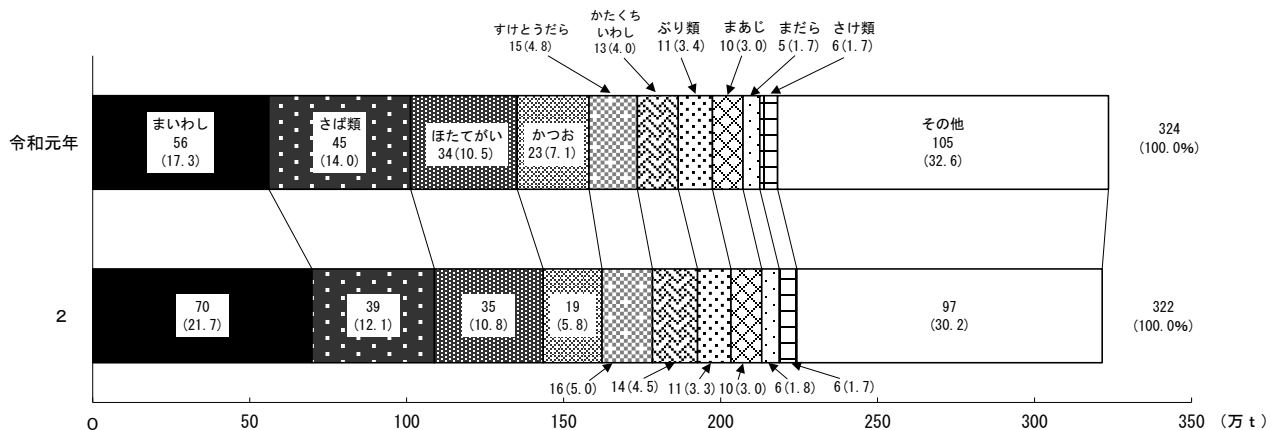
また、福島県の漁獲量は7万1,505 tであり、前年に比べて2,093 t（3.0%）増加した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、ほたてがい、すけとうだら、かたくちいわし、まあじ、まだらであり、減少した主な魚種は、さば類、かつお、ぶり類、さけ類であった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが21.7%、さば類が12.1%、ほたてがいが10.8%、かつおが5.8%、すけとうだらが5.0%、かたくちいわしが4.5%、ぶり類が3.3%、まあじが3.0%、まだらが1.8%、さけ類が1.7%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) まいわし

漁獲量は69万8,289 tで、前年に比べ13万7,457 t（24.5%）増加した。

これは、島根県、宮崎県等で増加したためである。

(2) さば類

漁獲量は39万296 tで、前年に比べ6万1,271 t（13.6%）減少した。

これは、長崎県、三重県等で減少したためである。

(3) ほたてがい

漁獲量は34万6,013 tで、前年に比べ6,578 t（1.9%）増加した。

(4) かつお

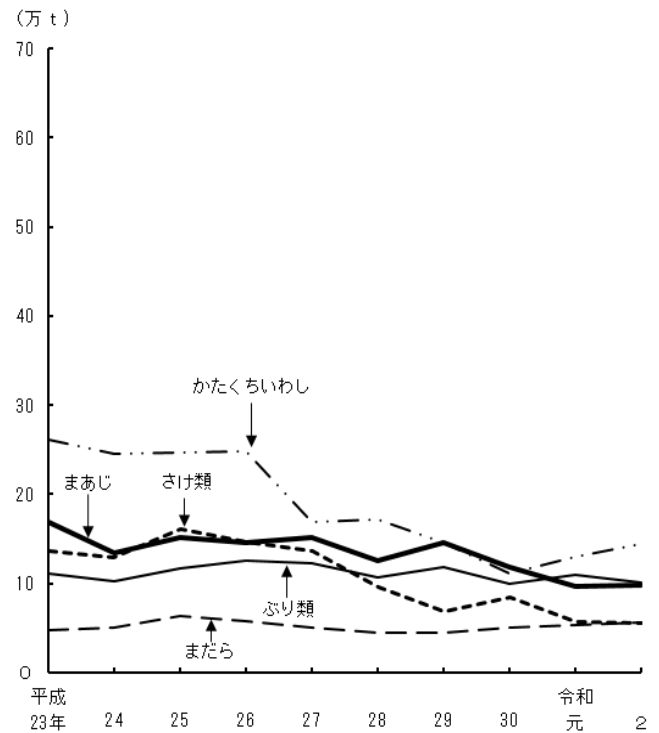
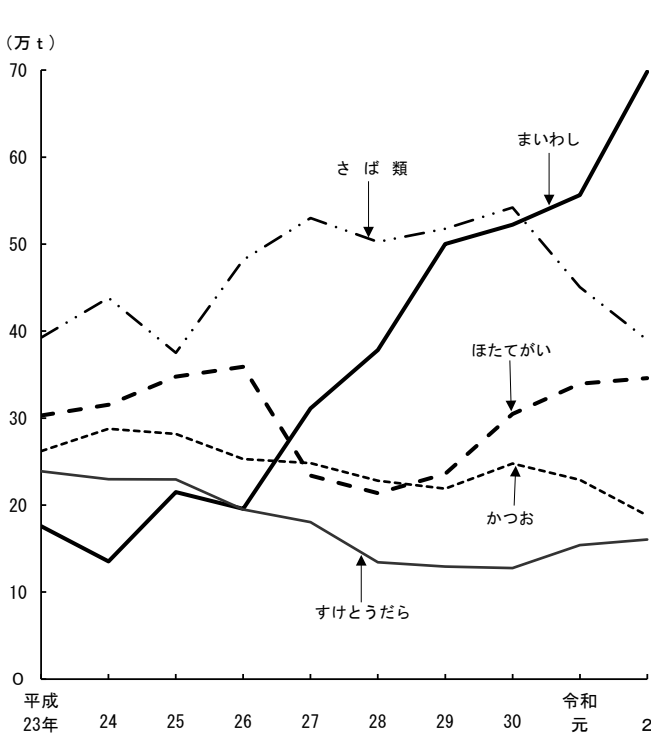
漁獲量は18万7,936 tで、前年に比べ4万1,013 t（17.9%）減少した。

これは、静岡県、宮城県等で減少したためである。

- (5) すけとうだら
漁獲量は16万325 tで、前年に比べて6,323 t (4.1%) 増加した。
- (6) かたくちいわし
漁獲量は14万3,834 tで、前年に比べ1万3,697 t (10.5%) 増加した。
これは、広島県、大阪府等で増加したためである。
- (7) ぶり類
漁獲量は10万6,315 tで、前年に比べ2,971 t (2.7%) 減少した。
- (8) まあじ
漁獲量は9万7,890 tで、前年に比べ748 t (0.8%) 増加した。
- (9) まだら
漁獲量は5万6,306 tで、前年に比べて2,829 t (5.3%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。
- (10) さけ類
漁獲量は5万5,995 tで、前年に比べ443 t (0.8%) 減少した。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は96万9,649 tで、前年に比べ5万4,421 t (5.9%) 増加した。

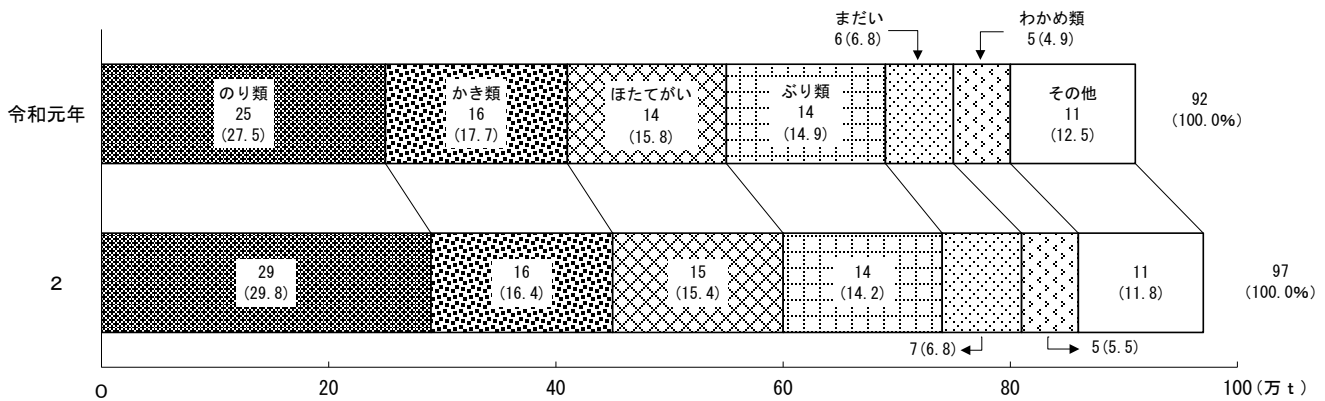
これは、のり類等が増加したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万419 t、宮城県の収穫量は8万3,798 tであり、岩手県は前年に比べて849 t (2.9%) 増加し、宮城県は前年に比べて8,530 t (11.3%) 増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、のり類、ほたてがい、ぶり類、まだい、わかめ類であり、減少した主な魚種はかき類であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が29.8%、かき類が16.4%、ほたてがいが15.4%、ぶり類が14.2%、まだいが6.8%、わかめ類が5.5%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は25万1,920 tで、前年に比べ3,783 t (1.5%) 増加した。

ア ぶり類

収穫量は13万7,511 tで、前年に比べ1,144 t (0.8%) 増加した。

イ まだい

収穫量は6万5,973 tで、前年に比べ3,672 t (5.9%) 増加した。

これは、愛媛県等で増加したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万7,333 tで、前年に比べ1,395 t (8.8%) 増加した。

これは、宮城県等で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は30万8,450 tで、前年に比べ1,889 t (0.6%) 増加した。

ア かき類

収穫量は15万9,019 tで、前年に比べ2,627 t (1.6%) 減少した。

イ ほたてがい

収穫量は14万9,061 tで、前年に比べ、4,595 t (3.2%) 増加した。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

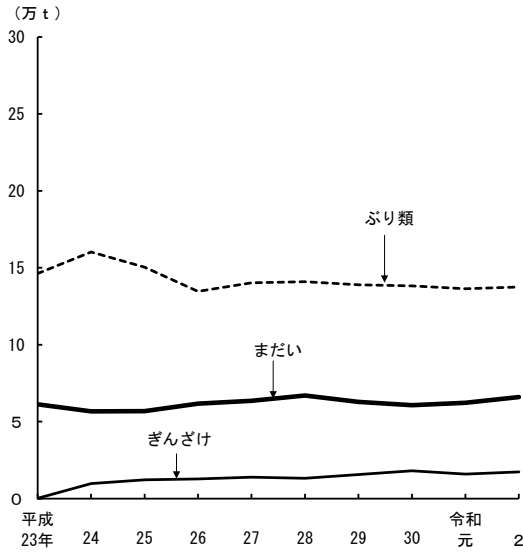
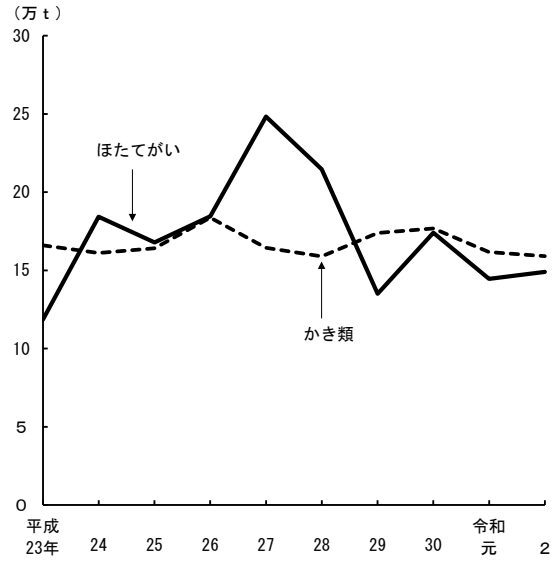


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は39万8,316 tで、前年に比べ5万1,927 t（15.0%）増加した。

ア のり類（生重量）

収穫量は28万9,396 tで、前年に比べ3万8,034 t（15.1%）増加した。

これは、兵庫県、佐賀県等で増加したためである。

イ わかめ類

収穫量は5万3,809 tで、前年に比べ8,710 t（19.3%）増加した。

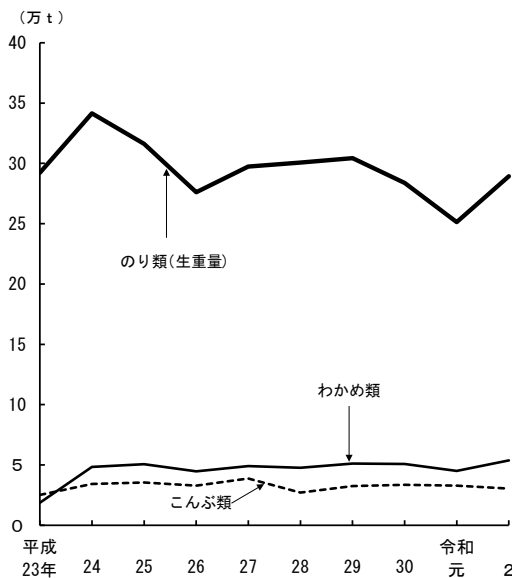
これは、宮城県、岩手県等で増加したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は3万304 tで、前年に比べ2,508 t（7.6%）減少した。

これは、岩手県等で減少したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要113河川及び24湖沼）の漁獲量は2万1,745 tで、前年並みとなった。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は10,521 tで、前年に比べ583 t（5.9%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は1万1,224 tで、前年に比べ605 t（5.1%）減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は8,894 tで、前年に比べ626 t（6.6%）減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

イ さけ類

漁獲量は6,609 tで、前年に比べ369 t（5.9%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

ウ あゆ

漁獲量は2,084 tで、前年に比べ31 t（1.5%）増加した。

エ わかさぎ

漁獲量は935 tで、前年に比べ46 t（4.7%）減少した。

オ しらうお

漁獲量は507 tで、前年に比べ58 t（10.3%）減少した。

これは、島根県、秋田県で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

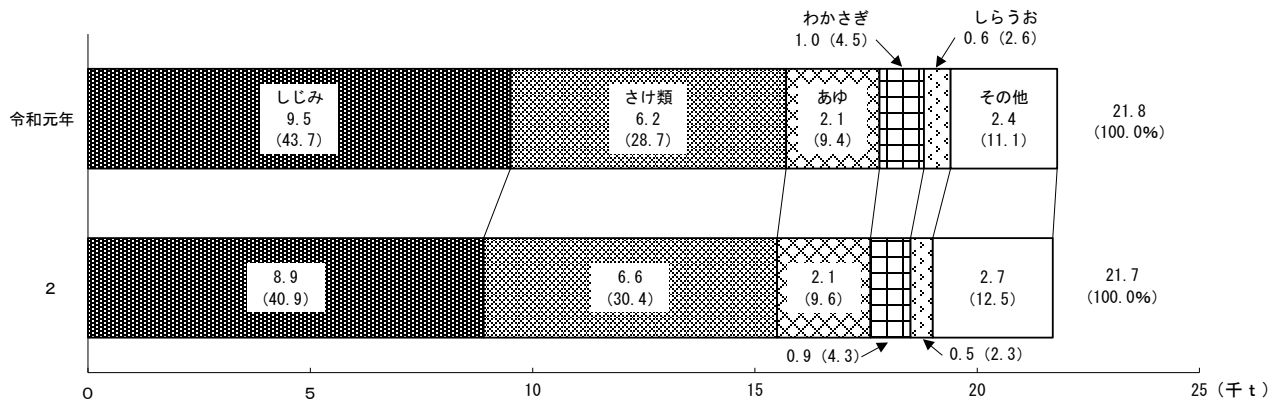
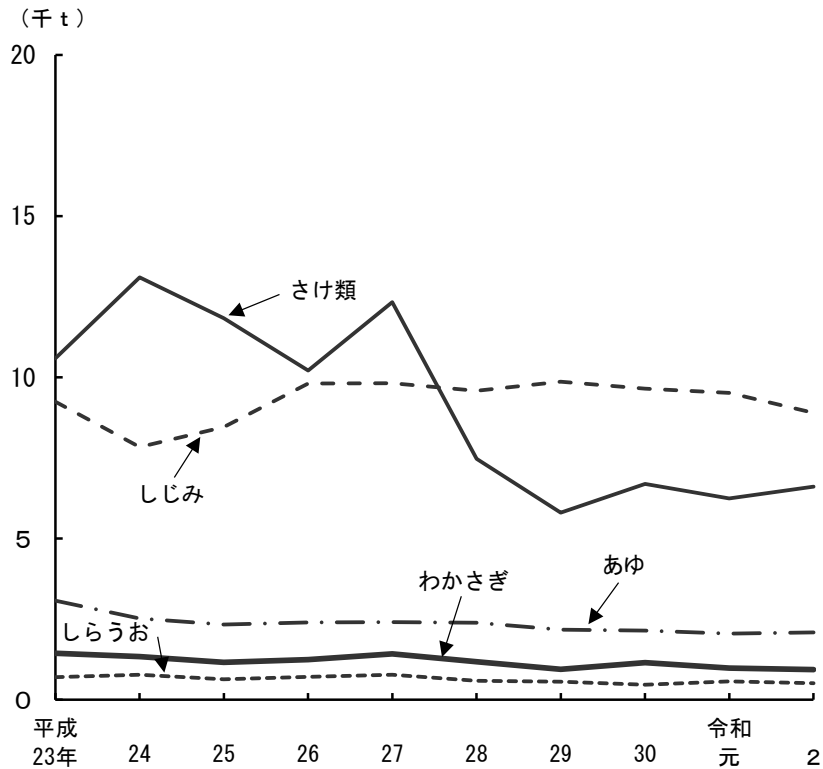


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は2万9,087 tで、前年に比べ2,129 t (6.8%) 減少した。

(1) うなぎ

収穫量は1万6,806 tで、前年に比べ265 t (1.6%) 減少した。

(2) にじます

収穫量は3,858 tで、前年に比べ793 t (17.1%) 減少した。

これは、静岡県、長野県等で減少したためである。

(3) あゆ

収穫量は4,044 tで、前年に比べ45 t (1.1%) 減少した。

(4) こい

収穫量は2,247 tで、前年に比べ494 t (18.0%) 減少した。

これは、茨城県、福島県等で減少したためである。

図11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

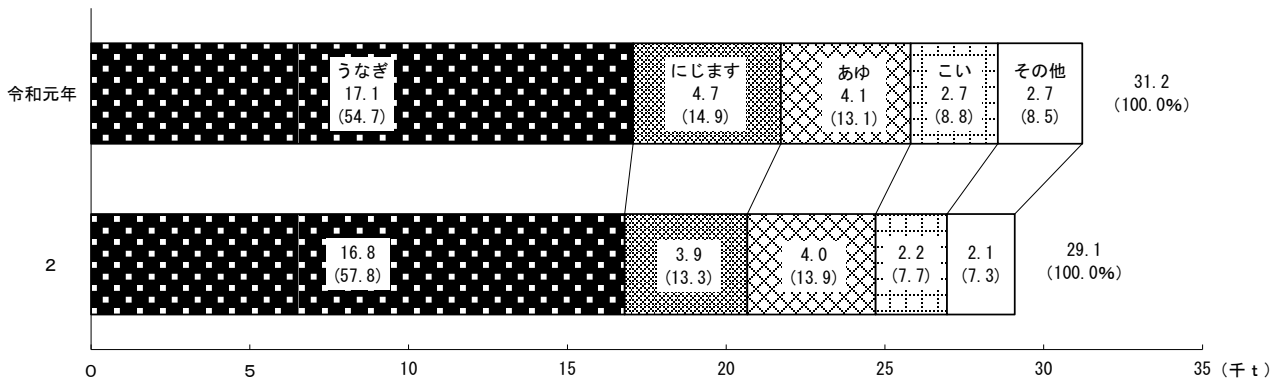
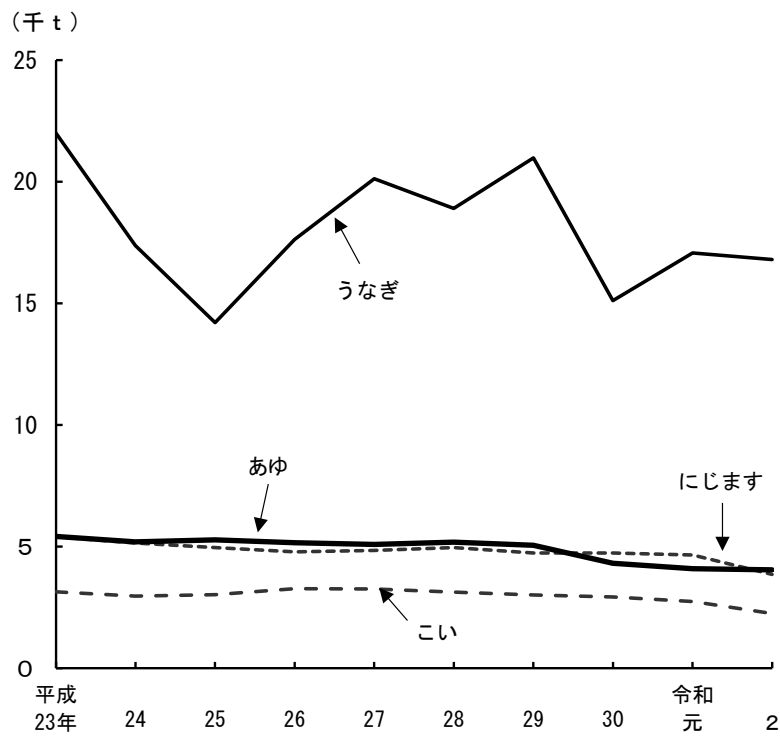


図12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



なお、観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は250万7,793尾で、前年に比べ25万6,348尾(9.3%)減少した。

これは、新潟県等で減少したためである。